

れき 民

となん歴民だより vol.40

Morioka tonan history and folklore museum

平成 26 年 9 月 30 日 発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



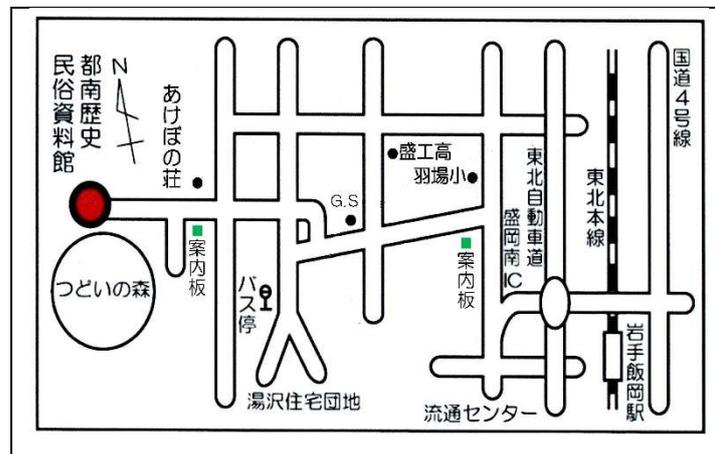
合同企画展「記憶にのこる盛岡・都南 —澤井コレクションを中心に—」

是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

- 企画展「戦時下の盛岡・都南」と大ヶ生鉱山
- 合同企画展「記憶にのこる盛岡・都南 —澤井コレクションを中心に」開催中
- 都南歴史民俗資料館移動資料展のご案内
- 資料は語る④
- 盛岡市所在指定・登録文化財紹介④
- となんの昔ばなし④

MAP☆ACCESS



○利用案内

開館時間

午前 9 時から
午後 4 時まで

入館料

無 料

休館日

月曜日
(休日に当たるときは、
直近の平日)、年末年始

企画展「戦時下の盛岡・都南」と大ヶ生鉦山

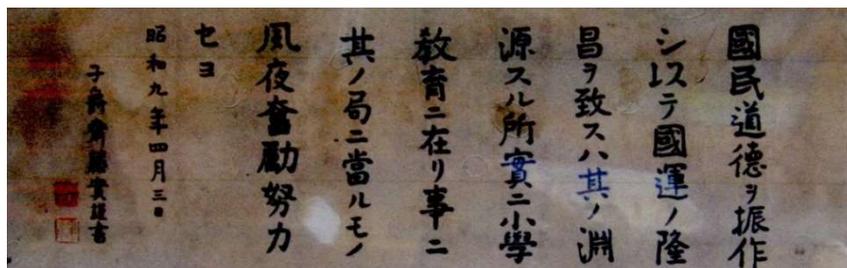
盛岡市都南歴史民俗資料館 学芸調査員 河野 聡美

当館では、平成26年7月5日から8月31日まで開催した企画展「戦時下の盛岡・都南」において、盛岡市立都南東小学校所蔵の斎藤實扁額を出品した。この扁額は、斎藤實が大ヶ生鉦山を視察した後、当時の大ヶ生尋常高等小学校(平成6年統合により閉校、現都南東小学校)に贈ったものとされている。

大ヶ生鉦山は、昭和10～16(1935～1941)年に全盛期を迎えており鉦山としての事業拡張期でもあった。この時期の大ヶ生鉦山は、大正5(1916)年から大阪の住友合資会社による経営が続いていた。当時の大ヶ生鉦山は、昭和10(1935)年7月に製錬所が完成したことにより、それまでの売鉦から積極的な買鉦へと動き出していた。また、街には飲食店が建ち並び交替勤務で働く労働者のため夜も遅くまで街灯が灯されるなど活気に溢れていた。

斎藤實が大ヶ生鉦山を訪れたのは、樺太方面から帰国した直後の昭和10(1935)年9月9日で、前日には松尾鉦山を訪れている。鉦山では、鍛錬道場、製錬所を視察のうえ講演を行っている。大ヶ生尋常高等小学校に贈られた扁額は2点で、1点は昭和9年4月3日付の扁額(写真)で、もう1点は「暴水」という号が用いられている。昭和9年4月3日は、皇居の二重橋前広場で全国小学校教員精神作興大会が開かれている。この大会は、全国から集まった約35000人の小学校教員が教育による報国を誓う大会で、昭和天皇や当時文部大臣を兼任していた斎藤實も参列していた。写真の扁額に書かれているのは、この大会で全国の小学校教員が天皇から賜った勅語の内容である。斎藤實が大ヶ生鉦山を訪れた際、大ヶ生尋常高等小学校の生徒が歓迎のため出迎えていることもあり同小学校に贈られたものと思われる。この訪問の半年後、斎藤實は二・二六事件で命を落としている。大ヶ生鉦山には、このほかにも東京帝国大学の桂辯三教授が視察に訪れるなど全国的にも注目されていたことが分かる。以後、国内における戦争の長期化と戦局悪化の影響を受け鉦山としての役割を終えることとなる。

現在、同地では当時の面影を残している場所は少ないが、坑口などの跡がいくつか残っており、萬寿坑跡は内部の見学が可能となっている。今回の企画展では、このほかにも昭和13(1938)年8月乙部村に甚大な被害をもたらした、大ヶ生鉦山労働者の宿所なども被害に遭った山津波の様子も紹介した。



合同企画展

「記憶にのこる盛岡・都南 一澤井コレクションを中心に」開催中

当館で平成26年7月5日(土)～8月31日(日)の期間開催しておりました企画展「戦時下の盛岡・都南」は、おかげさまで多くの方にご来館いただきました。当館では現在、11月30日(日)まで合同企画展「記憶にのこる盛岡・都南 一澤井コレクションを中心に」を開催しております。市内在住の収集家澤井敬一氏所蔵資料と当館所蔵資料から、明治～昭和期における盛岡・都南の写真資料を中心に展示しています。かつて馬産地を象徴するように盛んな馬市が開かれていた馬検場や、都南地域において北上川の東西を結び人・馬・ものを渡した渡船場に関わる写真や関係資料が並んでいます。また、昭和に入ると皇室関係者の盛岡訪問が続き、盛大に歓迎されました。秩父宮雍仁親王など当時盛岡を訪れた皇室関係の写真のほか、盛岡ゆかりの先人に関する資料が展示されています。本展開催中は当館周辺の紅葉も見頃をむかえますので、是非御来館ください。

都南歴史民俗資料館移動資料展のご案内

盛岡市都南公民館(キャラホール)において、平成26年10月18日(土)～26日(日)の期間「都南歴史民俗資料館移動資料展」を開催いたします。当館は湯沢つどいの森内に立地しており、来館が難しい、場所がわかりにくいという声をいただいております。そこで今回、当館所蔵の資料を都南公民館へ移動し展示する移動資料展を開催することになりました。展示資料は主に昔懐かしい生活道具や農具などで、「都南に住む」「都南で食べる」「都南で働く」という3つの構成で展示します。また、期間中には脱穀などの農具体験や講演会も行います。地域に残る資料を見に、是非足を運んでください。

【都南歴史民俗資料館移動資料展】

[開催日時]平成26年10月18日(土)～10月26日(日)

(平日9:00～16:00、土日10:00～16:00)

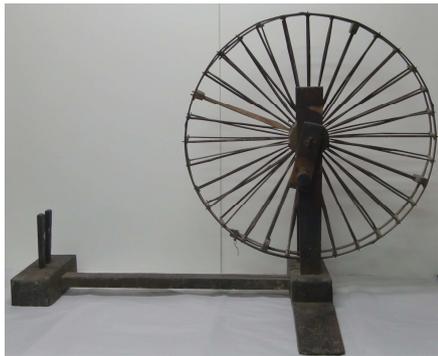
[会場]都南公民館(キャラホール)2F 第3研修室 [入場料]無料

(1) 18日(土)「つかってみよう!昔の農具・つくってみよう!こびるっこ」

(2) 25日(土) 講演会「となん・昔のくらし」

※(1)(2)は事前申込みです。詳細は都南公民館(019-637-6611)まで





(図 1)

【糸車】

糸車とは、繭から取った生糸や麻、綿などの繊維から糸を紡ぎ、撚りをかける道具です。糸車の先にある台には、図1のように小管を差し込んだツムを取り付け、糸車を回転させることで糸を撚ったり巻いたりすることができます。

当館には、都南地域の方々から寄贈していただいた糸車が多数残っており、旧都南村でも製糸は女性の仕事として盛んに行われていました。昭和 30(1955)年に都南村が誕生して以後、養蚕や麻栽培が徐々に衰退していることから糸車も次第に使用されなくなったと思われます。

参考：文化庁文化財保護部監修「日本民俗文化財事典」(1979)、川井村教育委員会「川井村民俗誌」(2000)、都南村誌編集委員会「都南村誌」(1974)

県指定天然記念物



山岸のカキツバタ群落

盛岡市街地から北東約 4 km、国道 455 号沿いの湿地内に山岸のカキツバタ群落があり、カキツバタの産地であった藩政期の面影を今に残しています。

カキツバタはアヤメ科に属し、盛岡周辺ではヨシやカサスゲなどと群落をつくって生育しますが、この群落はカキツバタのみの単純群落となっています。毎年、5月下旬から6月中旬になると、約 10,000 個の濃い紫色の花を咲かせ、一面を気品に満ちた紫紺の色で埋め尽くします。

参考・引用資料：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』、2008。

『お墓から生まれた和尚さん・前編』

となんの昔ばなし四十

今から五百年ほど前、宮古の千徳という所に大変熱心な仏教徒の若夫婦がいました。ところが、不孝にも夫は伝染病で亡くなってしまい、妻のお花がひとり残されてしまいました。お花は亡き夫の供養のため一層信仰に励み、村人は感心していました。身ごもっていたお花は、お腹の子に「親孝行の子になっておくれ」と声をかけ仏さまを拝んでいましたが、風邪で亡くなってしまいました。村人は、身よりのないお花を憐れみ、華嚴院という寺の山の墓地に埋めました。

翌日、となり村のある老人が山の墓地を通ると、埋葬されたばかりの墓にたくさんのお花があげられていることに気づきました。お花の墓とは知らずに念仏を唱え拜んでいると、赤ん坊の泣き声が土の中から聞こえてきました。老人は驚いて寺の和尚を呼び、寺の門前の人々も死者が赤ん坊を生むとは思議だと集まりました。お墓を掘ってみると、死んだお花に抱かれた赤ん坊がいました。

人々は、赤ん坊をひろいあげ母親は墓に埋め戻しました。和尚さんは老人に、赤ん坊を見つけたのだから子として連れて帰るようにいいました。しかし、老人はお布施をもらった寺の子だといえます。赤ん坊を預けようと老人が和尚さんに手渡すと、急に泣き出してしまい、老人に渡るとびたりと泣き止みませんでした。この様子を見た和尚さんが、赤ん坊は老人の子だということ、一人暮らしの老人は困ってしまいました。和尚さんが、授乳やお米など村の人々の協力を約束すると、老人も安心しました。